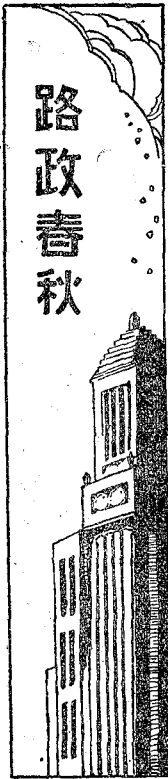


路政春秋



夢ならば覺めざらま しと超高速自動車國 道の計畫

内務省では非常時下の産業進展と國防充實の二つの目的から東京、大阪間を五時間、東京、福岡間を十一時間で吹つ飛ぶ超高速自動車専用國道の新設を計畫し大體原案が出来上つたので、明春實地調査を行ひ出来るだけ早く同國道の實現を計りたいと意氣込んでゐると傳へらる。この自動車國道で現在の特急列車の所要時間を約半分に短縮するといふのであるからまさに交通運輸の大改命である。而かも現在の東海道國道その他を擴張改修するといふのではなく、全

然新たに開設する自動車の専用道路で現在の東海道國道その他は屈曲多く幅員が狭く改良しても高速度で走る見込みがなくまた國道も逐年膨脹する貨客を消化することは困難であるとの見地から専用道路を全然新たに計畫したわけであるが計畫案によると同道路の總事業費は約四億圓で計畫の大綱は左の通りである。

- 一、自動車の速度は時速六十マイル
- 二、新國道の幅員は二十メートルで中央に二メートルの綠地帯を設け公側を車道とする、片側七メートル半
- 三、鐵道、道路等他の交通物體との平面交叉は絶対に避け自動車道は上にする
- 四、重要路線と會する箇所に停車場を置

注 本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身 擊に渡らざる限奇想天外的の寄 を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯部に一任、原は道路の改良編輯部宛のこと。

- き自動車國道とその路線を連絡する線設備する。
 - 五、橋梁はコンクリート構造とす。
 - 六、鋪裝は厚さ二十センチのコンクリートとする。
 - 七、事故防止のため兩側に胸止を設ける
 - 八、大都市とは環狀線又は重要路線によつて連絡する。
 - 九、關門海峡は近く工事に着手する關門海底國道を以て連結する。
- 聞いたか見たか二階
建の道路
- 或方面では帝都の交通緩和と工業の發達を計る目的から時速五十哩位を吹つ飛ばす

二階式の高速自動車専用道路造築の計畫立案を進めてゐるがその案によると路線は京濱線、甲州街道線、中山道線、青梅街道線、陸羽街道線、千葉街道線の六線である。

即ち帝都は工業の發達から交通量が激増し市内の交通能力は著しく低下して産業にも大きな影響を與へることとなつたので高速自動車専用道路を計畫したわけである。この専用道路は高さ五、六メートル幅員は十二メートル位、二階式のコンクリート道路で道路の下は商店並に倉庫に賃貸し道路が高層建築物を通らねば敷設出来ぬ場合は同建築物の二階を潜つて通り抜けることにするところに特色があるとのことである、この専用道路は東京の中心地から右の六線を放射式に建設し市外の適當の地點で平面道路と連続させ、また右の六線を適當の場所で環狀道路によつて連絡する。

しかもロータリー式によつてスピードを落さずに走れる様な仕組になるとのことである。帝都近郊の住宅地發展の實情から見て勤勞

者輸送のためにもこの専用道路は必要だと言ふ事である、聞いたか見たか。

心臓をぬかれても死 骸は死せずと蔣介石

の明言？

廣東は遂に昨日陥ちた日本軍が上陸以來淡水、惠州、博羅などを次々に攻略したのに對し、人々は支那軍隊の抗戦無力と軍事領袖の無能を思ひ廣東の運命を案じたそして遂に吾人の憂ひは事實となつた、吾人はこゝに「作勵の辭」を述べ廣東同胞に與へんとす。

一、廣州は奪はれたと雖も未だ廣東全省は落ちず「國都を失へば國亡び省都陥れば全省陥る」との古諺は形式にとらはれたものである、日軍は事實上中國の十省以上を占領すと雖も未だ中國を占領したのではない、廣州をとられても廣東省は亡びない。

二、國都陥落すと雖も吾人は決して廣東

の抗戦が失敗したとは考へない、中央は抗戦に適當な人物を配し軍政組織を改善し速に整頓を行はねばならぬ、吾人は中央がその責任を負ふべきものと思ふ。

三、中國の抗戦はこれを以て終了したわけではない、中國の國力は無限である、日本がその方針を改めない限り抗戦は依然繼續すべきである、假令武漢が陥落することが明らかであつても國府は決して和を乞ふ必要はない、絶對に國民は悲觀の要なし更に第四期抗戦に移るべきである。

「道路の改良」の編輯 も此至情あらばこそ

拜啓

益々御清榮の段慶費率り候

擬て御會御發行「道路の改良」誌上十月號へ海野彌之助氏寄稿『愛郷の至情に燃ゆる道路改良』の説苑を御掲載あり有り難く深

謝奉り候貴重なる頁を當地道路關係のため御割愛下され御發表下され候段有り難く涙を以て拜讀仕り候これによつて一寒村部落の特志者に對し御厚恩の萬分の一を報ひたる感有之候謹んで御厚禮申上候
右御禮申上げたく如斯御座候
昭和十三年十月二十八日

静岡縣磐田郡浦川町 田高 英作

あるかなきかの珍聞

奇譚(20)

○千年前の古井戸

『井戸』がわが國考古學の組上にのぼつたのは樞原聖地において次々に發見させられた古井戸登場以來のことで、學界に新しい課題をもたらしただけであるが、樞原聖地の古代井戸は圓形、角形、六角形、小形、楕圓形など實に多種多様を極め、時代はいづれも平安初期から末期と見られ約一千年前のものである。

①楕圓形のもの、深さも十數尺、外廓が

四角で規模大きく中から祝部土器の破片が出土した。

②小形のもの、外廓は曲木を以て作り、底部から、同じく曲木の桶が一個發見、水が淺く桶で水を汲んだものらしい。

③久米整地からあらはれた四角のもの、まだ全貌不明であるひは地中でどんな工作が施されてゐるか分らない。

④六角形の井戸もので手法も精巧であり考古學上最も貴重なる資料といはれてゐるこの底より祝部土器のほか蓮瓣瓦が一個發見、その文様により平安末期と考證されてゐる。

○三遷の教今いづこ

孟子の幼い時、其の母が孟子の教育上居所を三度遷しかへたと云ふ、話はあまりにも有名であるが其孟母の墓が武昌の街はづれにある、私は一日軍務の暇をみてこの孟母の墓を訪れた、附近に居た支那人に怪しい漢文で書いて尋ねると指さし教へて呉れた、教はつた所から少し行くとする程右側

に額縁の石門があり「吳孝子孟宗母墓圖」傍に「二十六年」と書いてある、二十六年は民國二十六年の建設を意味するものであることは石門の新しきから判つた。

門を入ると伸びるにまかせた夏草がぼうぼう生ひ茂り何處をみてもそれらしいものがない、支那特有の石垣の塀について少しあるくと低い丘がある、夏草の間から頭だけ出して居る眞新しい墓標の様なものがある、草をかき分ける様にしてみ、それが探して居た孟母の墓であつた、墓標の表には「吳孝子司空孟宗之墓」と御影石の様な粗末の石に刻んである、私はこの荒れ果てた墓標の前に呆然とゐんだ、これが偉人孟子を生み、そして育てたお母さんの墓だらうか、三遷の教を説いた人の墓だらうか？私は疑問を抱く程寂しい物足らなきを感じたとは在漢口松村氏の通信。